

第2期大野市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて(教育・保育の量の見込みと確保方策)

資料No.1

①量の見込み(ニーズ)

年度	見直し部分																									
	令和2年度				令和3年度				令和4年度				令和5年度				令和6年度									
	認定区分・年齢区分	1号	2号		3号		1号	2号		3号		1号	2号		3号		1号	2号		3号						
		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳		教育	保育	1・2歳	0歳						
現行	区分別	43	0	642	343	100	36	0	611	320	97	31	0	595	303	96	26	0	569	296	94	21	0	541	292	91
	小計	43	1085				36	1028				31	994				26	959				21	924			
素案	区分別	50	0	626	355	104	42	0	598	309	130	39	0	580	313	108	36	0	532	302	119	30	0	511	292	117
	小計	50	【実績】1085(0)				42	【実績】1037(9)				39	【見込】1001(7)				36	953(-6)				30	920(-4)			

②確保方策(定員)

現行	教育・保育施設	82	656	306	76	85	638	306	91	85	635	306	94	85	635	306	94	85	635	306	94				
	地域型保育事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-				
	小計	82	1038				85	1035				85	1035				85	1035							
素案	教育・保育施設	82	656	306	76	80	641	298	79	80	641	298	79	70	590	293	78	70	560	293	78				
	地域型保育事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	4	-	-	-	5	4			
	小計	82	【実績】1038(0)				80	【実績】1018(-17)				80	【見込】1018(-17)				70	970(-65)				70	940(-95)		

②-①([定員]-[ニーズ])

現行	定員余剰	39	-47				49	7				54	41				59	76				64	111			
素案	定員余剰	32	【実績】-47(0)				38	【実績】-19(-26)				41	【見込】17(-24)				34	17(-59)				40	20(-91)			

考え方

- ①各施設から提出された令和5・6年度の定員変更の希望を考慮。
- ②1号認定(教育)は、市が利用調整を行う仕組みはなく、施設の裁量が大きいため、施設の希望をそのまま反映。
(もともと定員が僅かであるため、ほとんどの施設において「定員削減による収入上のメリット」がない)
- ③2・3号認定(保育)は、市が利用調整を行う仕組みであるため、施設の希望を考慮しつつ、待機児童の発生のおそれがない範囲で反映。
- ④2号定員に余剰があり、3号定員が不足するため、各施設と継続して協議の上、可能な範囲で定員を2号⇒3号にシフトする。

定員の余剰が20人程度になるように見直す